

Book Review

咀嚼機能を支える臨床咬合論

—欠損補綴とインプラントのために—

河野正司 著

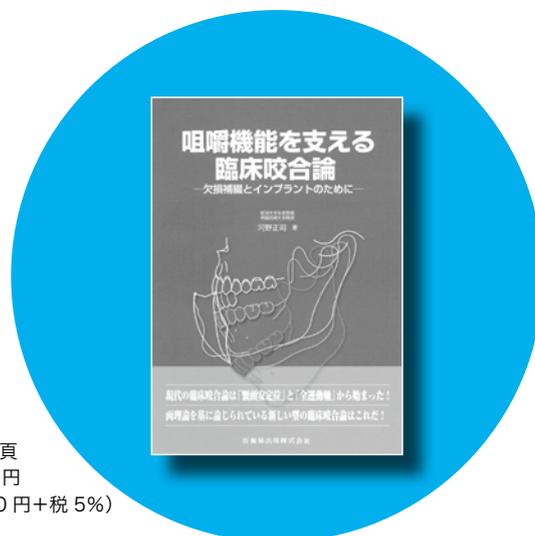
● ● ●

Reviewer

熊谷 崇

(山形県・日吉歯科診療所)

A4判, 240頁
定価 13,650円
(本体 13,000円+税 5%)
医歯薬出版刊



歯科臨床において、正しい咬合理論はどのような患者に対しても、どのような歯科治療を行うにしても不可欠である。

私が主宰するオーラルフィジシャンセミナーも、予防に軸足を置いているが、さまざまな患者さんに健康を提供し、咀嚼機能を維持させるためには、エビデンスに裏打ちされた、予防と治療が両輪となった歯科医療システムが必要であることを繰り返し教育している。

たとえば、幼児期から定期的なメンテナンスによってカリエスフリーを達成したとしても、咬合の問題を抱えているケースは数多い。

ましてや、長期にわたり問題があった時だけの処置を繰り返しながら、多くの歯に修復補綴が施され、欠損歯も

多くなった患者の口腔においては、もはやその患者本来の咬合様式さえわからなくなっているケースも多い。そして、そうした患者の多くが難症例として、一般的な歯科医療の恩恵を受けることなく我慢を強いられている現状がある。

今後の歯科医療の課題の一つは、できるだけそのような患者を生まないような歯科医療システムを確立することであろう。そのためには、人生のどの段階の患者であっても、また、小さな充填でも単冠一つであっても、常に咬合に配慮した治療を心がけることが必要である。

本書のサブタイトルは、「欠損補綴とインプラントのために」となっているが、その内容は咬合に関しての必要な知識が網羅され、最新のエビデ

ンスに沿ってまとめられている。

一般的に臨床家は咬合理論に関する書物に対して、難しく退屈ととらえがちであるが、本書はまず「臨床編」において補綴治療の目標と診断・治療法を提示し、「基礎編」によってそれを達成するために必要不可欠な咬合の知識をエビデンスに基づいて学習できるように構成されている。

どのような歯科治療も咬合の知識なくして行えるものではなく、そのような意味で本書は多くの臨床家にとって役立つ情報であるにちがいない。そして、そのような臨床家のいる診療所から、「人々が生涯にわたって口腔の健康を維持し、健全な機能を全うする」健康観の高い患者が量産されるという、歯科医療の究極の目標が実現されることを希望している。